

全学徒戦没者追悼・平和祈念祭で、献花する元学徒兵ら
11月18日午後、那覇市



悼・平和祈念祭が18日、那覇市の旧制県立第一中（現県立首里高）の寮跡地で営まれた。23日の「慰霊の日」を前に、元学徒兵ら約70人が集まり、鎮魂を願った。

沖縄戦の学徒2000人追悼

太平洋戦争末期の沖縄戦で亡くなった約2千人の学徒たちを追悼する全学徒戦没者追悼会が、いま一度父母に会いたいと訴えていた。悲痛な声なき



主催の「元全学徒の会」共同代表の瀬名波栄喜さん(96)は開会のあいさつで「死に直面したとき学友は、遺書の中で、いま一度父母に会いたいと訴えていた。悲痛な声なき

那覇 平和と鎮魂願う

国教育の恐ろしさを体感した学徒として容認できない」として「歴史的暴言」と批判する「平和宣言」を発表した。宣言を読み上げた元鉄血勤皇隊の与座章健さん(96)は、取材に「何であんなばかな戦争をしたのか。二度とやってはいけない」と語気を強めた。沖縄戦当時、県立農林学校3年で卒業直前に徴兵された渡口彦信さん(98)は「学友が国策で命を失った。上官の命令は朕(天皇)の命令で、絶対だった」と話した。

【問2】 6月23日は、何の日なのでしょう。

慰霊の日

【問2】 太平洋戦争末期の沖縄戦で亡くなった学徒たちは、約何人だったのでしょうか。

約2000人

【問3】 与座章健さんの発言を書き写しましょう。

「何であんなばかな戦争をしたのか。二度とやってはいけない」

【問4】 渡口彦信さんの発言を書き写しましょう。

「学友が国策で命を失った。上官の命令は朕(天皇)の命令で、絶対だった」

【考えてみよう】 身近な地域で戦争を経験した方々に話を聞いてみよう。

むずかしい漢字とことば

亡(な)くなる 追悼(ついとう) = 死んだ人を悼(いた)み、悲しむこと

那覇(なは) 寮(りょう) 跡地(あとち) 慰霊(いれい) = 死んだ人の霊を慰(なぐさ)めること

鎮魂(ちんこん) = 死んだ人の魂(たましい)を鎮(しず)め、なぐさめること 主催(しゅさい) = 催(もよお)しを行うこと

遺書(いしょ) = 死ぬ前に家族や親しい人へ残したメッセージ 訴(うった)え

悲痛(ひつう) = 心が痛み悲しいこと 傾(かたむ)け 恒久(こうきゅう) = いつまでも変わらないこと

祈念(きねん) = 願い事を祈(いの)り念(ね)じること 塔(とう) 展示(てんじ) 換(か)え

恐(おそ)ろしい 容認(ようにん) = 受け入れ認(みと)めること 批判(ひはん) 宣言(せんげん)

勤皇(きんこう) 徴兵(ちょうへい) = 国民の義務として兵役につくこと 国策(こくさく) = 国の決めた政策

朕(ちん) 鎮魂(ちんこん) = 死んだ人の魂(たましい)を鎮(しず)め、なぐさめること